ブルンジ月報（2024年7月）

1. 内政・外政

- 1日、第62回ブルンジ独立記念式典が首都ギテガのインゴマスタジアムにて実施され、賓客としてマハマト・イドリス・デビー・チャド大統領が同式典に出席した。その後、ブルンジ・チャド首脳会談が実施され、国連安保理改革の進展に向けて協力していくことなどで一致した（2日及び4日付 Iwacu）。
- 4日、第56回国連人権理事会会合にて、「ブルンジの人権状況に関する国連特別報告者」であるフォルチュネ・ガエタン・ゾンゴ（Fortuné Gaëtan Zongo）氏が報告を行い、ブルンジ国内における人権状況の悪化や言論の自由の制限に関する懸念を表明した。ジュネーブの国連代表部は同報告者制度そのものがブルンジのイメージを悪化させ、延々とブルンジを監視するためのものだとして批判している（11日付 Iwacu）。
- 9～27日、ンダイシミア大統領は「Caravane Inkebuzo」と名を冠した国内遊説を実施し、各州の重要インフラ案件の視察や若者との交流などをこなした（10～15日付 RTNB）。

2. 開発協力

- 5日、ンダイシミア大統領は世界銀行の代表団による表敬を受け、ブルンジの社会経済情勢、良いガバナンス、マイクロファイナンス、外貨準備高の不足などについて意見交換を実施した。世銀代表団はブルンジで実施中のプロジェクトサイトを視察予定（7日付 RTNB）。

3. 経済

- 11日、コンゴ（民）東部のウヴィラ市は、ガソリンなどの商品を非正規ルートでブルンジ側に販売することを禁止する決定を撤回することを発表した。ブルンジでは数週間前から国内で深刻なガソリン不足が生じており、ブルンジ側から国境を越えて無許可でウヴィラ市内のガソリンを購入する商人が絶えなかったため、同市はこのようなガソリンの販売を禁止していた。ウヴィラ市によれば、毎日5千リットル以上のガソリンがブルンジ側に販売されている（12日付 Iwacu）。

以上